

2018年5月11日(金) 10:35~11:25・神戸女学院講堂

# 21世紀における女子大学の存在意義

～セブンシスターズにおけるトランスジェンダーの学生をめぐる  
アドミッションポリシーを通して考える～

津田塾大学 学長・学芸学部英文学科 教授  
高橋 裕子 先生



セブンシスターズと呼ばれた米国東部の名門女子大の中で、  
今も「女子大学」として躍進しているバーナード、プリンマー、  
マウントホリヨーク、スミス、ウェルズリーの5大学が2014年  
前後、次々とトランスジェンダーの学生をめぐるアドミッション  
ポリシーを公表した。

本講演では、2013年から14年にかけて私がフルブライト客員  
研究員としてウェルズリー大学において行った調査や経験を紹介  
しつつ、20世紀に起きた女子大学の共学論争と、トランスジェン  
ダーの学生を受け入れる新たな「共学」論争がどのように異なるのかを  
明らかにしたい。さらに、各大学が明文化した新たなアドミッションポリシーの相違点を概観し、  
女子大学としての大学アイデンティティの問題も検討する。

女子大学がなぜ創設され、どのような発展を遂げてきたのかといった歴史的な視点も踏まえ、  
2010年代に入って巻き起こった、もう一つの「共学」論争を考察することで、21世紀における  
女子大学の存在意義をみなさまと広く考えることを本講演の目的としたい。

〈経歴〉 1980年 津田塾大学英文学科卒業。1983年 米・カンザス大学大学院 M.A.取得。1984年 筑波大学  
大学院修士課程修了(国際学修士)。1989年 米・カンザス大学大学院 Ph.D.取得。桜美林大学を経て、  
1997年 津田塾大学助教授、2004年 津田塾大学教授、2016年より津田塾大学学長。  
専門は、アメリカ社会史(家族・女性・教育)、ジェンダー論。アメリカ学会副会長、日本学術会議連携会員。

## 〈関連の著書〉

『津田梅子の社会史』玉川大学出版部、2002年(アメリカ学会 清水博賞)

『家族と教育』石川照子・高橋裕子共編、ジェンダー史叢書、第2巻、明石書店、2011年

“Recent Collaborative Endeavors by Historians of Women and Gender in Japan,” *Journal of Women’s History*, (2013)  
Vol.25, No.4, 244-254.

「トランスジェンダーの学生受け入れとアメリカの名門女子大学」 『教育とLGBTIをつなぐ』三成美保編、青弓社、  
2017年

〈参加無料・申込不要〉 多数の方のご来場をお待ちしております。

タクシーでお越しの際は「西門」をご利用ください。(自家用車はご遠慮ください。)  
キャンパス内は全面禁煙です。ご理解ください。

【問合せ先】 神戸女学院大学 女性学インスティテュート

〒662-8505 西宮市岡田山4-1 Tel : (0798) 51-8545 e-mail : wsi-o@mail.kobe-c.ac.jp

